

新たな宮崎県立高等学校入学者選抜 実施方針（素案）

1 実施方針

多彩な資質・能力に光をあてる入学者選抜
— 9年間の学びを未来につなぐ「学びのバトン」として —

2 実施時期

令和 10 年度入学者選抜（令和 7 年度の中学 1 年生が対象）

3 実施方針の〈視点〉と主な〈内容〉

〈視点①〉多彩な資質・能力に光をあてる選抜制度

現行の自己推薦方式による推薦入学者選抜と一般入学者選抜を発展的に融合し、
受検者が義務教育を通して育ててきた多彩な資質・能力を、これまで以上に多
角的な視点から評価します

〈内容〉

- ・ 5 教科（国語・社会・数学・理科・外国語）の『学力検査』への一本化
- ・ 各高等学校のアドミッション・ポリシーを踏まえて設定する『学校独自
検査』（面接、適性検査等）の導入

〈視点②〉第 1 志望校に「挑戦」できる選抜制度

現行の一般入学者選抜における志願校数を拡充します

〈内容〉

- ・ 複数校に出願できる『複数志願制』の導入

〈視点③〉選抜期間のスリム化を図る選抜制度

選抜期間の短縮により、受検者および中学校等・高等学校の負担を軽減すると
ともに、入学者選抜に伴う教育活動の中断を最小限に抑えます

〈内容〉

- ・ 現行の「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を『前期入学者選抜』
として統合し、『前期入学者選抜』において、募集定員の 100%を一括
して募集

新たな宮崎県立高等学校入学者選抜 実施方針（素案）

1 実施方針

多彩な資質・能力に光をあてる入学者選抜

— 9年間の学びを未来につなぐ「学びのバトン」として —

社会構造が激しく変化し、将来の予測が困難な時代において、次代を担う子どもたちに、しなやかに自らの人生を舵取りできる力を育成することが求められています。

県教育委員会は、新たな県立高等学校入学者選抜を未来への「学びのバトン」と位置付け、受検者が義務教育を通して身につけた多様な学びの成果を、より多面的・総合的に評価します。

2 実施時期

十分な周知及び準備の期間を確保するため、令和 10 年度宮崎県立高等学校入学者選抜（現中学校 1 年生が受検する年度に実施される選抜）から実施する方向で検討を進めます。

3 見直しの背景

- 県教育委員会は、令和 4 年度県立高等学校入学者選抜より、自己推薦方式による推薦入学者選抜（最大 3 教科の学力検査と適性検査）と、一般入学者選抜（5 教科の学力検査と面接）を実施し、受検者の多様な能力や適性、興味・関心を評価する選抜方法の多様化を進めてきました。
- また、「ひなたの学び」^{※1}を推進し、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、そして学びに向かう力・人間性等までを含めた資質・能力の育成を図るとともに、各県立高等学校が持つ存在意義や社会的役割を示したスクール・ミッションに基づく各校の特色化・魅力化にも取り組んでいます。
- これからの公立高等学校入学者選抜は、単なる「選抜」ととどまらず、義務教育段階までの学びと高等学校入学以降の学びをつなぐ「学びのバトン」としての役割を併せ持つものにとらえ、本県の県立高等学校入学者選抜制度の見直しを進めます。

4 実施方針の〈視点〉と主な〈内容〉

〈視点①〉多彩な資質・能力に光をあてる選抜制度

現行の自己推薦方式による推薦入学者選抜と一般入学者選抜を発展的に融合し、それぞれの特性を兼ね備えた新たな選抜制度へと一本化します。受検者が義務教育を通して育んできた多彩な資質・能力を、これまで以上に多角的な視点から評価します。

〈内容〉

調査書を含め、様々な資料を選考資料に用いて選抜します。学力検査については、5 教科（国語・社会・数学・理科・外国語）の『学力検査』に一本化します。また、各高等学校のアドミッション・ポリシーを踏まえて設定する『学校独自検査』（面接・適性検査等）を導入します。

〈視点②〉 第1志望校に「挑戦」できる選抜制度

志願^{※2}の拡充を図り、受検者が臆することなく第1志望に挑戦できる環境を整え、進路選択の可能性を広げる選抜制度を目指します。

〈内容〉

複数校に出願できる『複数志願制』を実施します。

〈視点③〉 選抜期間のスリム化を図る選抜制度

選抜期間の短縮により、受検者、中学校等・高等学校の負担を軽減します。また、入学選抜による中学校・高等学校の教育活動の中断を最小限に抑えることで、学校が本来の教育活動に専念できる時間を確保し、生徒一人ひとりの学びを保障するとともに、教育活動の充実を図ります。

〈内容〉

現行の「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を『前期入学者選抜』として統合し、『前期入学者選抜』において、募集定員の100%を一括して募集します。

5 その他

- (1) 合格者が募集定員に満たない場合に実施していた「二次募集入学者選抜」は、『後期入学者選抜』として引き続き実施します。
- (2) 一般入学者選抜の「選抜追検査」は、『前期入学者選抜』の「選抜追検査」として、引き続き実施します。
- (3) 「中高一貫教育校（連携型）における入学者選抜」、「帰国・外国人生徒等入学者選抜」は、『前期入学者選抜』と同日程で実施します。
- (4) 「推薦入学者選抜（スポーツ推薦方式）」については、日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ大会後の実施の在り方について検討していきます。
- (5) 定時制・通信制については、これからの定時制・通信制課程の在り方を踏まえた選抜制度について検討していきます。
- (6) 「調査書」は、入学者選抜の資料として真に必要な事項のみを設ける方向で、現行の調査書の項目を精選します。

6 今後のスケジュール

年度	月	内容
令和7年度	3月	・新たな宮崎県立高等学校入学者選抜実施方針（素案）の公表 ・パブリック・コメントの実施（3月25日～4月24日）
令和8年度	夏頃	・新たな宮崎県立高等学校入学者選抜実施方針の公表 ・県内中学校等へ、リーフレットの送付
令和9年度	夏頃	・新たな宮崎県立高等学校入学者選抜要綱の公表
	2月～3月 (実施時期未定)	・令和10年度宮崎県立高等学校入学者選抜の実施

※1 「ひなたの学び」は、子供たちの学びの方向性について、「ひ・な・た」から始まる分かりやすい言葉で県教育委員会として整理したもの（◎ひとりひとりが 問いをもち、㊦かまとなって 学び合い、㊧かめよう 深く考える力）。

※2 現行制度では、学科を2以上置く高等学校を志願する場合は第2志望又は第3志望まで志願可、普通科系専門学科を志願する場合は第2志望まで志願可（ただし、高鍋高等学校においては、探究科学科を第1志望とする場合、同校の普通科及び生活文化科を第2志望もしくは第3志望とすることができる）。